

## 青森空襲——浜館国民学校「空襲日誌」から

【問合せ】  
市史編さん室 ☎ 017-732-5271

太平洋戦争の末期、今から68年前の昭和20年（1945）夏、青森市はアメリカ軍の爆撃機による空襲に見舞われ、市街地は灰燼に帰し、多くの尊い人命が奪われました。

現在、青森空襲については、「青森空襲を記録する会」などが、後世に伝えるための活動を続けています。また、市内には平和記念像をはじめ、空襲の記憶を刻んだモニュメントが建てられています（写真①⑤⑥）。

ただ、その一方で、戦後68年という時間の経過とともに、当時のことを実



【写真①】青森平和記念像（柳町通り）

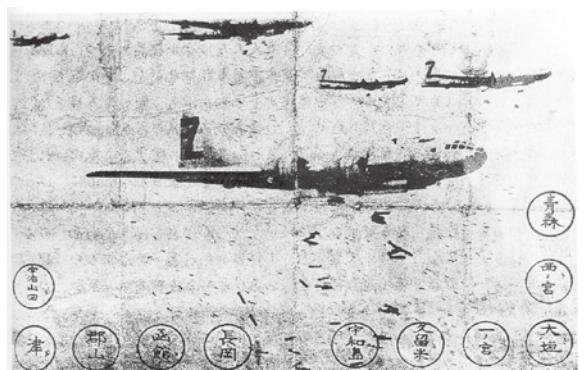
体験として持つていらっしゃる方が少なくなっ  
てもきています。

今回は、私たち青森市民が、次代につないでいくべき歴史の記憶、青森空襲を取り上げることになります。

### 焼き尽くされた県都青森

アメリカ軍による東北地方への空襲は、すでに前年の昭和19年12月に宮城県塩竈市で行われていました。その後、昭和20年7月14・15日と8月9・10日には東北全域への空襲が行われました（『青森県史』資料編近代4）。この間、アメリカ軍は宣伝ビラで11都市の空襲を予告し、そこには青森市もその攻撃目標のひとつであることが記されていました（写真②）。

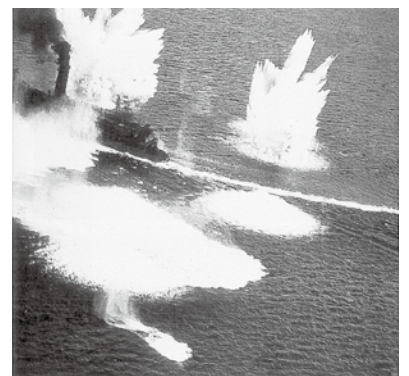
さて、7月14日と15日、ついに青森市も空襲に見舞われます。この時の爆撃で、青函連絡船12隻のうち、合浦公園北沖1・8キロメートルのところ



【写真②】空襲予告ビラ（『写真集（改訂版）青森大空襲の記録』青森空襲を記録する会より）

被災した翔鳳丸（写真③）をはじめ沈没が8隻、座礁が2隻、そして2隻が損傷するという壊滅的な被害を受けました（青森空襲を記録する会ホームページ）。また、青函連絡船が攻撃されたことで、本州と北海道との間の輸送は致命的な打撃を受けることになりました（前掲『青森県史』）。

そして、7月28日から翌29日にかけての空襲は、夜の青森市街地を襲ったもので、61機の爆撃機B29で1時間以上（約2時間という記録も）爆撃されました。しかも、燃焼力、殺傷力の高い新型の爆弾が使われ、8月3日付の県知事報告によれば、住宅被害は1万5千戸を超え、死者は731名に上りました。焼失範囲は市街地の70パーセ



【写真③】爆撃される翔鳳丸（『写真集（改訂版）青森大空襲の記録』青森空襲を記録する会より）

ントとも80パーセントともいわれ、まさに甚大な被害となりました。また、8月9日と10日も空襲の被害に遭い、例えば、野内の石油タンクは、7月14日に続いて2度目の爆撃を受けました。そして、戦争はそれから間もなくの8月15日に終わります。青森市、さらには市民にとつての「戦後」は、まさに空襲による戦災からの復興といつていいでしょう。

### 空襲被害と学校

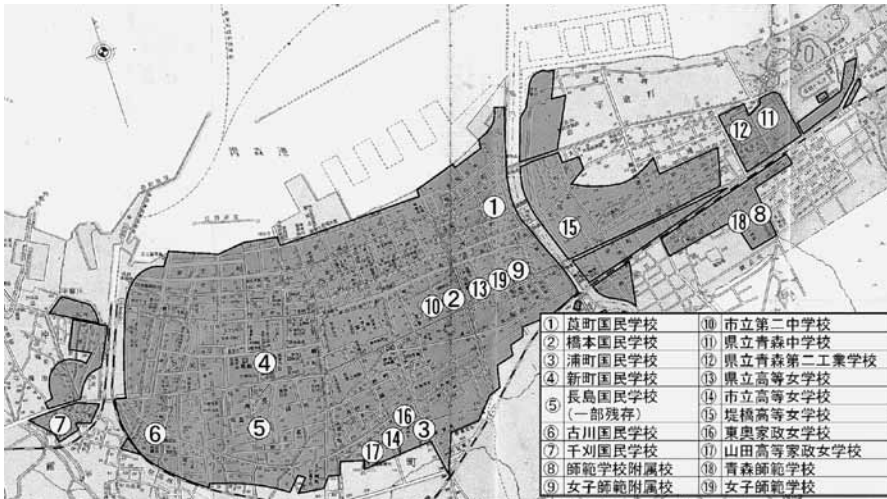
図①は、7月28・29日の空襲による被害範囲と、罹災した19の学校を示したものです。

このように、市街地では多くの学校が被害に遭いました。幸い、隣村浜館村の浜館国民学校は空襲の被害を免れ、「空襲日誌」という記録が残されています。

ます。これは、『青森空襲の記録』（青森市1972年）にも載っています。空襲当時のようすを知る手がかりとして、その一部を紹介することにしませう。

「空襲日誌」——7月28・29日

この日記の筆者（教頭カ）は、7月



〔注〕昭和18年「青森市全図」をベースマップに、『写真集（改訂版）青森大空襲の記録』（青森空襲を記録する会、2002年）の「青森市街空襲被害範囲図」を参考に図を作成し、そこに『青森空襲の記録』（青森市、1972年）のデータを落とし込んだ。

【図①】7月28・29日の空襲による被害範囲と罹災した学校

29日の早朝から罹災した人々がやってきます。そこで、体操場の一部と教室6室を避難所として開放しました。また、炊き出しを行い、手当にあつたようで、このとき「市民ヨリ多大ノ感謝ヲ受ク」と記されています。さらに、学校だけでなく、空襲を免れた集落でも罹災者を受け容れました。こういう苦難に遭遇した時こそ、みんなで助けあつて乗り越えようとしていた当時の人々の姿をうかがうことができます。

28日の午後10時頃、東北地方をアメリカ軍機が北上中という情報を得ます。そして、これは青森市を爆撃すると直感し、急いで学校へ向かう途中、爆撃機による市内への爆撃と火災の発生を目にします。爆撃は午後10時半頃から始まったという記録もあるので、情報を得てから間もなくの空襲であつたといえるでしょう。そして、空襲直後のようすとして「青森市ハ八重田・造道・沖館・練兵町ヲ残シタルミニシテ、全市殆ド荒涼タル焼野原ト化セリ」と記しています（写真④）。



【写真④】大町・浜町方面（『写真集（改訂版）青森大空襲の記録』青森空襲を記録する会より）

「復興」、そして記憶をつないで

空襲によって、青森市街地はまさに「死の街」と表現されるほどに荒廃しました。しかし、市民一人ひとりの再建への意欲に加え、旺盛な生活力は、復興の原動力となりました（『東奥日報』昭和21年7月27日）。そして3年が経ち、当時の新聞は、「石の上にも3年、生きる力のたくましさは、かくて焦土の思い出を拭い去り、大青森が再建されてゆく」と報じています（同右、昭和23年7月28日）。青森の街は着実に復興の途を歩みました。

一方、この空襲で多くの尊い命が失われました。悲しくも、こればかりは



【写真⑥】空襲慰霊碑（三内霊園）



【写真⑤】「空襲・戦災都市 青森」の碑（市役所前）

どうやっても取り戻すことはできません。今私たちができることといえば、青森というまち、そして人々の心に深く刻まれた「空襲の記憶」を失わないこと、そして、将来の世代へこの「記憶」をつなぎ、今ある「平和」に想いを寄せることではないでしょうか。（市史編さん室事務長 工藤 大輔）